

お いし こう えん 生石公園 ガイドマップ

あまり知られていないけど、実は隠れた絶景ポイント!!
マニアックな国立公園へようこそ!



柏原山から見た生石

生石公園への交通アクセス

公共交通ご利用

神戸方面から	三ノ宮バス停	▶約90分	洲本バスセンター	生石口バス停	徒歩 ▶約15分
	高速舞子バス停	▶約60分			
			洲本IC		
			淡路IC		
			淡路北IC		
			淡路南IC		
			洲本IC	淡路島中央SIC	一般道 ▶約30分

自家用車ご利用

大阪市内から	▶約90分	洲本IC / 淡路島中央SIC	一般道 ▶約30分
神戸市内から	▶約60分		
徳島市内から	▶約40分		



シーウォッチング



写真提供：中野 光祥

岬からは、紀淡海峡を往来する大型船を間近で観察できます。豪華客船のほか、オイルタンカーや自動車運搬船など大きさや形、用途も様々な船舶はどれも個性的でシーウォッチングを存分に楽しめます。

友ヶ島 (和歌山県)



写真提供：和歌山市

手前から地ノ島、沖ノ島、その向こうが淡路島。由良要塞は和歌山の深山周辺や友ヶ島(地ノ島・虎島・神島・沖ノ島の総称)の堡壘・砲台なども含み構成されていました。

各所に設置された堡壘・砲台は、単体では十分な威力を発揮できません。それぞれの施設がそれぞれを補い、強力な防衛力を有します。「要塞」と呼ばれる理由です。

鉄壁の要塞群を配備した理由

紀伊国と淡路国の間には「紀淡海峡」があり、艦船が通過できるのは、淡路島と友ヶ島との間の由良瀬戸と呼ばれる幅4.7kmだけです。ここを通過されると大阪湾の地形上、京阪神の防衛はできないため、必ず紀淡海峡で食い止める必要がありました。



生石の植生・海辺のいきもの

生石山の植生は、暖地の広葉樹が主で、15m以上の高木層(ホルトノキ・スダジイ・カシなど)、5~15m以上の亜高木層(ウバメガシ・エノキ・カラスザンショウ・ハゼノキなど)、5m以下の低木層(カクレミノ・ネズミモチ・ツバキ・ヒサカキなど)、つる植物(サカキズラ・サネカズラ・キツタ・サルトリイバラなど)が観察できます。

また、生石山の梅園は3月頃に**紅梅**と**白梅**が見頃を迎え、4月頃には**桜**が満開となり、訪れる人々を和ませてくれます。



ホルトノキ



サクラ



ハマアザミ



アカテガニ



ハマシノミガイ



イソカナタタキ

生石の海岸沿いでは、**ハマアザミ**・**クルマバアカネ**などの希少植物をはじめ、**ハマダイコン**・**ハマゴウ**・**ハマウド**などの海浜植物が見られます。

また、**アカテガニ**や**ハマシノミガイ**などのカニや貝類をはじめ、**イソカナタタキ**といった希少な昆虫も生息しています。

地質

生石山・成山(成ヶ島)の地質は「和泉層群」という、約6,500万年前(後期白亜紀)の泥岩・砂岩・礫岩などの地層でできています。地層からは貝の化石が見つかることがあります。

また生石山から南の海岸線は、中央構造線という地質の境界があり、急こう配で直線的な海岸線が広がっています。

紀淡海峡に面する生石山(標高122m)は、昭和25年に成ヶ島とともに、瀬戸内海国立公園に指定されました。

また、明治期には国防の重要拠点として由良要塞が築かれ、遺構から当時の面影を知ることができます。

歴史遺産①



▲「由良要塞」※写真は第一砲台跡

明治22年から39年にかけて整備された由良要塞は、終戦まで京阪神地方を防衛する施設として東京湾要塞に次いで重要な要塞でした。

歴史遺産②



▲「成山砲台跡」

成ヶ島の成山山頂には由良城(成山城)がありましたが、江戸時代「由良引け」により現在の洲本市街地にお城を移し、その後明治24年に成山砲台が作られました。現在は成ヶ島・紀淡海峡の眺望を楽しめる成山展望台として利用されています。

※海に向けて撃つ大砲のことを「砲台」、陸に向けて撃つ大砲のことを「堡壘」といいます。



A おいしきょうてんぼうだい 生石岬展望台

紀淡海峡を望む展望台と、成ヶ島を望む展望台があります。憩いのスペースとして利用できるよう、ベンチやトイレも充実しています。

平成22年 環境省整備



B だいさんほうだいあと 第三砲台跡

生石山砲台の中で最大規模の軍事施設でした。発射指揮を行う観測所があり、その両翼には4門ずつ計8門の大砲(口径24cm)が配備されていました。

明治31年 加農砲8門設置



C おいしきょうてんぼうだい 生石海峡展望台

ウバメガシやホルトノキなどが自生している園路を散策しながら自然を満喫でき、成ヶ島や友ヶ島を見渡せる眺望ポイントです。

平成21年 環境省整備



D だいいちほうだいあと 第一砲台跡

第一砲台は生石山砲台の中では最大の28cm榴弾砲が6門配備されていました。榴弾砲は弾道が山形になるために、敵軍艦の上部を破壊することを目的としていました。

また、高い場所から砲弾を落下させる方が威力が大きくなるため、生石山砲台で最も高い標高110mの場所にあります。このことから生石山高砲台と呼ばれていました。この榴弾砲は、日露戦争の時に旅順で活躍したことで有名です。

明治33年 臼砲4門設置



G だいやんほうだいあと 第四砲台跡

生石山砲台の中で最も低い標高68mの場所にあるため、生石山低砲台と呼ばれていました。低い位置からの攻撃に適した加農砲が配備されました。第四砲台の加農砲は、対岸の加太(和歌山県)にも届く14,100mの射程距離を有していました。

明治31年 加農砲4門設置



生石公園散策コース

コース① (所要時間 15~20分) 第一駐車場⇨C 生石海峡展望台

※途中、一部急な階段があります

コース② (所要時間 10~15分) 第二駐車場⇨C 生石海峡展望台

※バリアフリー対応の散策路です

●出石神社駐車場(4台駐車可能)からも散策できます



F だいがほうだいあと 第五砲台跡

第五砲台は、速射加農という加農砲が配備されていました。第一砲台から第四砲台までの大口経砲の死角を射撃したり、中小規模の艦艇を攻撃するためにつくられました。

由良要塞の中では新しい時期に建てられたため、他の砲台と異なり、石やコンクリートを使用しています。

明治31年 速射加農砲4門設置



E きぼうだい 紀望台

紀淡海峡から太平洋までを一望でき、生石山から南に続く急峻な海岸線も見渡せて、まさに絶景パノラマ!

昭和47年 洲本市整備



- 車道
- 遊歩道
- バリアフリー経路
- 散策コース①
- 散策コース②